

日立グループ 議員団だより

2003年 1月

No. 32

発行：日立製作所労働組合 政治部
〒136-0071 東京都江東区亀戸9-3-13

編集：日立グループ議員団会議

日立グループ議員団活動方針（議員団の心得5原則）

1. 日立グループ労組出身議員であることの自覚を常に堅持すること
2. 政治活動は、日立グループ連合、日立労組の運動方針を基本とすること
3. 電機連合をはじめ、支援組織との連携強化に努力すること
4. 地域活動は住民の心を的確に掴み活発に展開すること
5. 常に研鑽に励み、清潔な姿勢を貫き、住民の信頼を高めるように努めること

明けましておめでとうございます。昨年も日立グループ議員団としての自覚と誇りを持ちながら、まじめに働くものが報われる公正な社会実現のため、政治活動に取り組んでまいりました。その日常政治活動に対して皆様の温かい御理解とご支援を頂き、ありがとうございました。

挙党一致体制で全力を挙げた行動を

また、昨年12月に行われました、「茨城県議会議員選挙」への、日立グループ連合の皆さんのご支援に深く感謝申し上げます。結果は、民主党の混乱が大きく影響し、各候補ともが全力で戦い抜きましたが、9名の内、現職1名を含む4名が落選するという大変残念な結果となりました。投票率も20%台のところもあり、県民の皆さんの政治への期待に応えることができず、猛省すべき選挙戦となりました。

しかしそのような中、組織内候補である3名が見事当選することができ、ご支援頂いた皆様に心から御礼を申し上げます。

さらに昨年9月の民主党代表選挙では、皆様のご協力を頂きながら、鳩山氏が党代表に選出されましたが、その後辞任するという残念な結果になりました。代表選挙で御協力頂きました皆さんに心から御礼申し上げますと同時に、お詫び申し上げます。民主党は、12月10日選出された菅代表をはじめとする新執行部体制の下、民主党結党の原点である「市民が主役」「まじめに働くものが安心して暮らせる公正な社会」の実現をめざし、改めて国民のため、全員で菅代表を中心に一致結束して、景気対策に全力で当り、働く仲間の皆さんが安心して暮らせる社会の実現をめざします。

景気回復、雇用維持創出を最優先課題に

小泉首相就任以来、日本の経済はさらに下降を続けています。これは、相変わらずの政官業癒着、利権誘導政治の体質を改革できない自民党政権が続いているからです。やはり日本は政権交代でしか変えられません。今、最優先でなすべき事は、景気と雇用の回復です。将来に対する不安をなくし、働くものが安心して暮らせるよう、雇用・年金・医療・介護など社会保障制度改革に全力を上げることと、地域経済の現実をしっかりと直視し、経済・金融政策や税制の大転換を図ることです。そのために民主党自身が国民の皆さんから信頼される政党として結党の原点に立ち返り、自己改革することが必要です。

統一地方選へのご支援をお願いします

今年の4月からは統一地方選挙や各種選挙が始まります。各地域の仲間の議員や予定候補者の当選のため全力でがんばりましょう。皆さんの御支援を今年もよろしくお願い致します。

結党の原点に
返り団結して
取り組みます



日立グループ議員団会長
衆議院議員
大畠 章宏





茨城県議会議員
長谷川修平

県域デジタルテレビ放送の 開始に向け本格始動

茨城県は全国で唯一県域テレビ放送がない県です。地域に密着したテレビ放送がないため、災害時の情報伝達等県民生活に影響を及ぼし、県域の一体感という面での必要性が声高に指摘されてきました。私も12年前の初議会における一般質問等何度も県域テレビ放送の整備を求めてまいりました。

このような中、今年から、関東広域圏などで地上デジタル放送が放映開始されることに伴い、本県でもいよいよ来年10月頃からNHKによる県域テレビ放送が開始されることが有力になってきましたが、このような成果を導き出したのは今年の第2回定例

会で議員提案の「地上放送のデジタル化に伴うNHKの県域放送を求める意見書」を議決し、総務大臣に提出するなど、県議会での活動が結び付いたものと考えられます。

現在NHKの本県情報は1日平均11分程度ですが、県域放送が始まれば2～3時間と大幅に増え、県内の出来事やイベント、さらには災害時には避難や被害状況が迅速かつ正確に伝えられるなど大きな効果が期待されています。



茨城県議会

高萩・十王の可燃ごみ受入れへ 条件整備を進め、広域処理へ

日立市は、高萩市、十王町、高萩市十王町事務組合及び、茨城県から、「高萩市、十王町から発生する可燃ごみの処理」を依頼されました。日立市としては、自治体で発生したごみは、その自治体で処理をすることが基本ではあるが、緊急避難的な対応であり、短期的、一時的な受入れとして条件整備をして、受入れていきたいとの方針を示し、平成14年6月議会で協議しました。



平成14年6月から指定袋使用となり、整然としたごみ収集所（使用前(上)、使用后(下)）

日立市議会は、「高萩市、十王町がごみ処理施設を建設する計画を前提に協定すること」「可燃ごみの組成確認を確実にすること」などの条件整備をすることで、受入れの準備を進めることを了承しました。

平成14年9月の全員協議会では、議会からの申し入れを受け、高萩市・十王町と調整協議した結果、一般家庭からの可燃ごみ、受入量は日立の処理施設に支障が生じない量、焼却量に応じた焼却残渣は搬出する、処理価格は約2万5千円/トン等の合意が得られたことから、本年12月1日より受入れ処理することになりました。



日立市議会議員
椎名 敦史

新市長誕生、政策手腕に大きな期待



ひたちなか市議会議員 日新クラブ議員団 山中 輝夫



ひたちなか市に20年ぶりに新市長が誕生しました。

旧勝田市時代から5期20年にわたり、ひたちなか市の牽引役として市政を担われてきた清水市長が勇退されました。合併の実現など筆舌に尽くしがたいご苦労があったと思います。これまでの取り組みと勇気ある決断に敬意を表します。

そして、新市長を決める選挙戦、私たちが推薦をする本間氏と前市議会議員との一騎打ちとなりました。当初、本間氏は知名度が低く苦戦をしましたが、多くの皆様方の良識あるご支援により、勝利することができました。おかげさまで新しい時代にふさわしい新しいひたち

なか市長を誕生させることができました。

本市は、まだまだ多くの課題を持つ発展途上の街です。厳しい財政状況の中で、積極的且つ継続的な行財政改革をベースに社会資本整備に取り組まなければなりません。茨城のトップランナーを目指す本間氏の政策手腕に大きな期待をすとともに、私たち日新クラブ議員団は、議員という立場で、本間市政と協力しながら諸課題に全力で取り組んでまいります。



長らく景気の低迷により地方自治体は税収不足に陥り、国からの地方交付税も年々減額の一途を辿ることが予想される今日、住民本位の総合行政の将来を確保するには、自治体の財政体質の強化と行政改革による経費の削減が必要不可欠であり、急速に市町村合併の気運が高まっています。

我が大平町でも平成14年3月に「市町村合併特別委員会」を設置し、広域行政区である栃木市を核とした、1市5町での合併を前提に各市町の財政状況や施設を含めた



現状分析を実施すると共に合併先進地である、ひたちなか市、潮来市等を視察し、調査・研究を重ねてきました。

合併の意義は、合併によって失うものもあるが、お互いに努力すれば得るものが多いことは過去の合併事例や先進地を視察した結果で明らかであります。

我が町の合併を考えた時、町民の生活圏や財政分析をしっかりと行い、合併によるメリット、デメリットについて町民との対話の中で明確にし、将来の明るい展望が期待できる合併に向けて努力したいと思います。

市政
たより



大平町議会議員
高岩 義祐

合併論議、町民との対話で



市政
たより

70万都市誕生「静岡市」に

清水市議会議員
田中 敬五

平成15年4月、清水市と静岡市が合併し70万都市が実現することになりました。4年間論議してきた法定協議会は「合併の是非を含めての協議を」というものであり、本来の法定協議会の性格と違う一面を有しました。

前期2年間は新市のランドデザインの策定を進めての結果を踏まえて、後期2年間で建設計画等を策定し最終的に合併の是非を判断していくこととしました。前期に任意の性格を持たせたとはいえ、結果的には「法定」という枠組みの中で協議会の議論は展開することになりました。

静岡市47万、清水市24万の中で「対等合併」を確認

しましたが、最大の問題は新市の名称であり、全国公募もして取組んできましたがまとまらず、最終的には協議会委員の投票ということになりました。この委員に県職員2名が参加しており、この2名が「静岡市」へと知事命令で投票し進市の名称が「静岡市」に決まるという皮肉な結果となりました。

今回の合併は当初の「街づくり論」から、70万都市でも政令市可能という判断材料が大きく左右し、その意味では「合併タイミング論」そのものと言えます。



合併協議会での論議の様子

安来市と言えば民謡安来節、安来節にはあのユーモラスな踊りで知られる「どじょうすくい踊り」がつきものです。

市では、安来節の地域資源を有効活用し、4年前から「どじょうのまち振興事業」に取り組んでいます。どじょうの養殖、名物料理の開発と料理店の開業、特産品の開発や安来節とタイアップした観光ソフト商品の開発など、様々な戦略プランのもとに、「日本一のどじょうのまち」を目指して、全国に向け情報を発信しています。

養殖4年目を迎えた安来市では、市内の小川にどじょうが帰ってきています。また、減反水田での養殖により、農村の美しい自然の景観が蘇りつつあります。

まだまだ本格出荷という段階には至りませんが、東京浅草の老舗料理店である「駒形どぜう」からの注文も来ています。

グループ議員団の皆さんに、一日も早く「駒形どぜう」で安来節の本場の味として、「安来どじょう」を食べて頂けるよう努力してまいります。

市政
たより



安来市議会議員
中村 健一

安来市のどじょう振興事業

にきわつ「駒形どぜう」出店



人と人とのつながり“絆”に これからの政治の明日を信じ



横浜市議会議員
(ソフト支部)
松本 敏

新年明けましておめでとうございます。本年も日立グループ議員団、絆を大切に、誇りと責任を持って頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

政治家不信を払拭する姿勢と力量

私は人と人との気持ちのつながりを大切にしております。政治家不信を払拭するには他人のせいにするのではなく地域の課題に自ら積極的に取り組み、中心となって解決する姿を示すことだと思います。

いわゆる日本型システムが各分野で見直される時代に入りました。これまでの考え方そのものを変えていく必要があります。場合によっては正解のない問題にぶつかり、自分の見識と決断力が問われると思います。今、政治にはスピード、楽しさ、本音、個の尊重、情報公開などが要求されています。

組合員と本音の対話で理解を得る

電機産業が社会に果たす役割は生活の快適さ、便利さ、速さを提供すると共に効率化、省力化、安全性、環境、福祉、教育などの面でおおいにあると思います。これらはすべて政治と深く関りをもっています。このことを職場組合員に理解して頂くためには対話が大事であります。この時、理性やたてまえで話すのではなく、自分の感性

で本音のディスカッションをしなければなりません。なぜなら議会で決めるものは組合員にとって利益になることばかりではないからです。

今年一年が皆様とご家族の皆様にとってより良い年になりますよう念願致します。

茨城県議会選挙

当選御礼

昨年12月8日(日)に行なわれました茨城県議会選挙におきまして、日立グループ議員団公認の長谷川修平、今一男、細田武司が、見事当選することができました。

今回の選挙はかつて経験したことがない非常に厳しい選挙戦ではありましたが、おかげさまでそれぞれ当選を果たすことができ、これもひとえに、絶大なるご支援を頂いた皆様方のおかげと、厚くお礼申し上げます。

今後も皆様のご期待に応えるよう日立グループ議員団一人ひとりが精一杯頑張りますので、引き続きのご支援・ご協力をお願い致します。

幹事長の主張

2003年統一地方選挙

本年4月は統一地方選挙があります。我々、日立グループ議員団からも多くの議員が立候補を予定しておりますので、全員の当選に向けて頑張ります。皆様のご支援・ご協力をお願い致します。

4/13(日)予定

神奈川市議会

松本 敏(ソフト支部)

4/27(日)予定

日立市議会

石野 正美(日立支部)

西川 光世(日立支部)

青木 俊一(日立支部)

松山 節男(H&L多賀支部)

渡部 源昭(大みか支部)

二瓶 隆(日立電線電線支部)

村田 悦雄(日立化成山崎支部)

椎名 敦史(HEC)

栃木市議会

増山 利雄(H&L栃木支部)

高崎市議会

植原大二郎(高崎支部)

習志野市議会

帯包 文雄(産機システム)

尾張市議会

佐藤 信幸(旭支部)

熊谷市議会

松本貢市朗(日立金属熊谷支部)

沼津市議会

山崎 篤(AEパワー沼津支部)

皆様のご支援をよろしくお願い致します